

2025 学校法人案内



東京経済大学



学校法人東京経済大学
理事長
菅原 寛貴

東京経済大学は明治・大正・昭和の激動の時代に一代で大倉財閥を築き上げた大倉喜八郎により、1900年(明治33年)赤坂葵町に大倉商業学校として設立されました。1919年(大正8年)大倉高等商業学校に昇格、1949年(昭和24年)の学制改革に伴い、現在の「東京経済大学」という名称で新制大学としてスタートします。2020年10月に創立120周年を迎え、今日、4学部7学科1プログラムと4研究科を擁する社会科学系総合大学として地歩を確立しています。

2012年には第1次中期計画(2012年度～2020年度)を策定し、5号館教室棟・新図書館建設等のハード面と教学、財務人事データの整備等のソフト面の強化に取り組みしました。2018年から『アカデミズムに裏打ちされた実学教育』を基本コンセプトとし、教学ビジョン(ゼミ・カリキュラム改革、英語と多文化共生力強化、データサイエンス教育、大学院の教学改革)を提示し、これを計画的に実現していくことを重要テーマとしました。

2020年には新型コロナウイルス感染症対策と並行して第2次中期計画(2021年度～2025年度)を策定しスタートさせました。2021年度に全学的なデータサイエンス教育を開始し、2022年4月にコミュニケーション学部を「メディア社会学科」と「国際コミュニケーション学科」の2学科体制に改組し、2024年度には「国分寺キャンパス第2期整備事業」をスタートさせました。

大倉翁が開校より学生に語り続けた一貫した考えは、商業・経済・金融に精通した人材の育成と語学などの実学教育の重要性です。すなわち、①国際性の涵養、②挑戦し続ける姿勢(進一層)、そして③責任と信用の大切さです。この考えこそ本学校風の核心であります。120年を超えた伝統と経験を踏まえ、社会の要請に積極的に応えて自己改革を推進し、地域社会に開かれた大学を常に目指します。

18歳人口の減少という大きな潮流は本学を含む所謂中堅校程その影響は大であります。受験生から選ばれる大学、魅力ある学部づくり、そして保護者・高校の先生から推薦していただける大学への変革は喫緊の課題であり、今後教職員一丸となって「進一層」につとめてまいります。

第2次中期計画 (2021年度～2025年度)

18歳人口の長期的減少に加え、大学進学率の今後の上昇が見込めないことから、大学進学者数の減少が確実視されており、多様な入学者の確保と教育の質の保証の両立が課題となります。特に、グローバル化への対応、AIやIoT、ロボット、及びビッグデータ、DX(デジタルトランスフォーメーション)に関連する技術革新によるSociety5.0と呼ばれる将来の社会の実現に向け、文理融合型教育、とりわけデータサイエンス教育の重要性が増しており、それらへの対応が求められています。このような環境下において、社会科学系総合大学としての本学のブランド力を高め、社会的に評価される大学づくりを行っていきます。

各項目の政策立案に際しては、2020年3月の大学基準協会による認証評価結果を踏まえ、特に「教学」については、本学の建学の精神を将来に向けた指針とした上で、学長の下で策定した、新たな教学ビジョン(10年後を見据えた新構想)を計画的に実現していくことを重要テーマとしています。

東京経済大学「『進一層』募金」

建学の理念である「進一層」と「責任と信用」を財政面から支えるため、東京経済大学は恒常的な寄付金制度として「『進一層』募金」を創設しました。本募金制度は、学生支援、施設設備の充実及び学修環境の整備のための重要な財源となっており、有効に活用させていただいております。また、各種寄付金への累計額を基準として適用される顕彰制度がございます。

「『進一層』募金」では、次の7つの分野への支援を募っています。①学生支援奨学募金、②研究奨励募金、③キャンパス整備募金、④東経の森・水と緑の募金、⑤ゼミナール等支援募金、⑥修学支援特別奨学寄付金、⑦スポーツ・文化振興募金

東京経済大学は、皆様の温かいご支援を受けて、社会に貢献できる人材を育成してまいります。今後とも「『進一層』募金」へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

沿革

大倉喜八郎、 商業学校設立趣意書 を公表		高等商業学校への 昇格が認可される		赤坂葵町から 国分寺へ移転		経済学部商学科を 発展改組し、 経営学部を開設		日本初の コミュニケーション 学部開設 TAC〈多摩 アカデミック コンソーシアム〉 結成		大学院 コミュニケーション 学研究科 修士課程開設、 2001年には同博士 後期課程を開設		経済学部 国際経済学科を開設		TKUチャレンジ システムスタート 大学院4研究科で、 日本初の シニア大学院生 受け入れ		武蔵村山キャンパス リニューアル		創立120周年		コミュニケーション学部 メディア社会学科と 国際コミュニケーション学科の 2学科体制へ、 4学部7学科体制となる	
1898 (明治31)年	1900 (明治33)年	1919 (大正8)年	1944 (昭和19)年	1946 (昭和21)年	1949 (昭和24)年	1964 (昭和39)年	1970 (昭和45)年	1995 (平成7)年	1998 (平成10)年	1999 (平成11)年	2000 (平成12)年	2002 (平成14)年	2004 (平成16)年	2007 (平成19)年	2014 (平成26)年	2015 (平成27)年	2017 (平成29)年	2020 (令和2)年	2021 (令和3)年	2022 (令和4)年	
大倉商業学校開校 9月1日、東京・赤坂 葵町に開校		大倉経済専門学校と 改称		大学へ昇格 東京経済大学(経済 学部経済学科・商学 科、昼夜二部制)を 開学		大学院開設、 経済学研究科 修士課程を開設 1976年には 同博士後期課程、 1984年には経営学 研究科修士課程、 1986年には同博士 後期課程を開設		経営学部に 流通マーケティング 学科を開設		創立100周年 現代法学部開設		大学院 現代法学研究科 修士課程開設 4研究科体制に		新図書館開館、 大倉喜八郎 進一層館 (Forward Hall) オープン		キャリアデザイン プログラム開設		経済学部・経営学部に 教養探求プロジェクトを導入 全学的データサイエンス教育が スタート			

受け継がれる、実業家精神。 「考え抜く実学。」

Forward Forever「進一層」

Be Honest and Responsible Citizens「責任と信用」



大倉 喜八郎



- 1837年(天保 8年) 9月24日(新暦10月23日)、現在の新潟県新発田市に生まれる。
- 1854年(嘉永 7年) 10月に郷里を出立し江戸に出る。その才を遺憾なく発揮し、商人として成功をおさめる。
- 1873年(明治 6年) 大倉組商會を設立し、ヨーロッパをはじめ世界各国との直貿易に進出。我が国における世界貿易の先駆けとなる。その後、東京電燈、帝国ホテル、その他数多くの企業の設立に参画し役員に就任する。
- 1900年(明治33年) 大倉商業学校(東京経済大学の前身)を設立。
- 1917年(大正 6年) 合名会社大倉組を持株会社とし、大倉商事、大倉土木(大成建設)、大倉鉱業を直系3社とするコンツェルン機構を形成した。
- 1928年(昭和 3年) 4月22日没 享年92(満90歳)。

キャンパス



図書館



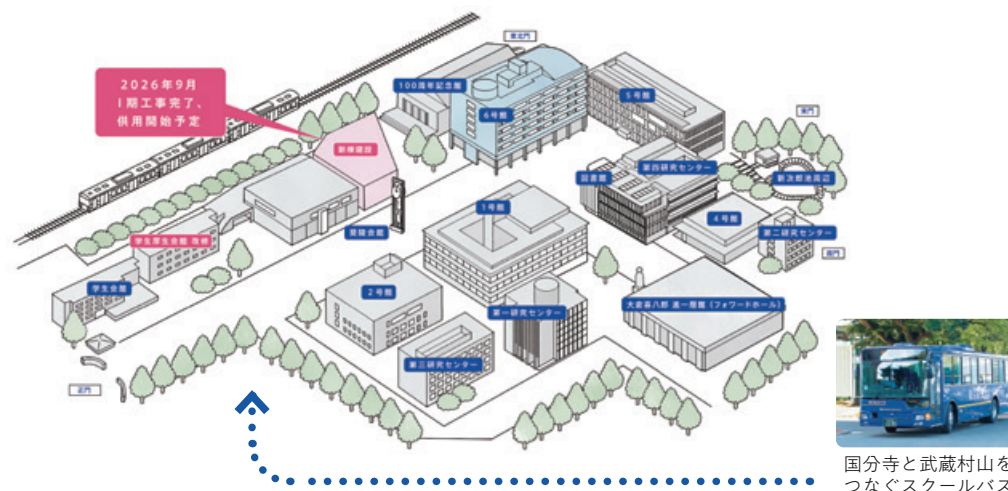
100周年記念館



教室棟

国分寺キャンパス ◆校地面積:59,131.00㎡

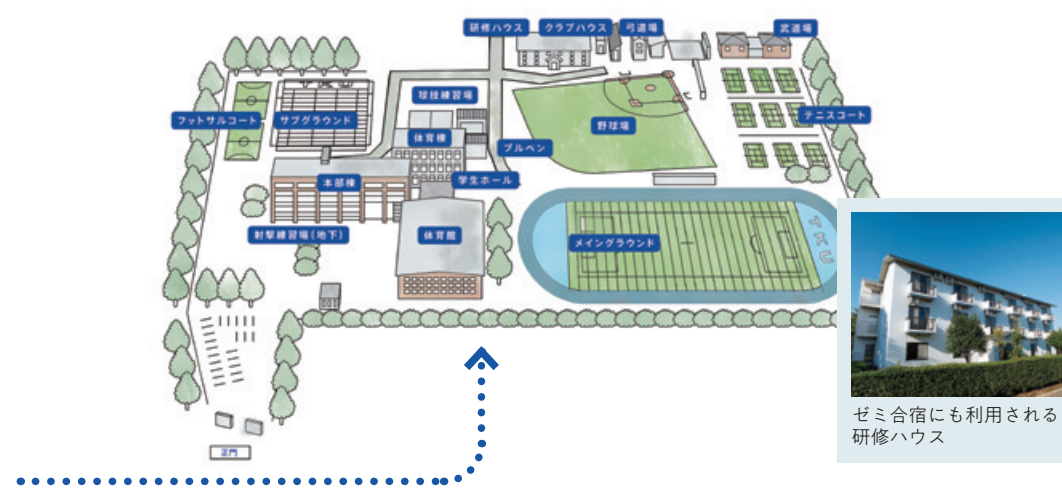
全学部の学生が4年間、ともに学び研究し、サークル活動を楽しむ緑豊かな国分寺キャンパスは武蔵野の生態系を保護・再生し、環境との共生をテーマに進化を続けています。



国分寺と武蔵村山をつなぐスクールバス

武蔵村山キャンパス ◆校地面積:79,541.05㎡

各種屋外競技場や体育館、武道場等のほか、研修ハウスも備え、体育会系サークルの活動やゼミ合宿に利用されています。



ゼミ合宿にも利用される研修ハウス



メイングラウンド



国際交流会館(学生寮)

東経大のある国分寺市に隣接する小平市にある男子学生寮。各部屋にエアコン、キッチン、ユニットバス、ベッドなどの設備を備えています。外国人留学生も入寮していて、国際交流の場にもなっています。

新棟 完成イメージ

「学生のためのキャンパス整備」をコンセプトとして、国分寺キャンパス第2期整備事業を進めています。2026年9月に完成予定のⅠ期工事では、食堂、ラウンジ、ラーニングコモンズやミーティングルームを計画しています。その後、2028年7月には部室や小ホール、購買店舗など(Ⅱ期工事)、2029年1月には現在の学生厚生会館1~2階を大規模に改修してラーニングコモンズを整備する予定です。



教育

(学部・学科・プログラム／大学院)

経済学部

(経済学科／国際経済学科)

経済学科は、財政や金融、労働や社会保障、環境やコミュニティなど、日々の暮らしに深く関わる分野を経済学の観点から学びます。世の中の多岐にわたる経済・社会問題を、理論的、歴史的に理解し、実証的に分析できる能力を養成します。

国際経済学科は、欧米諸国や成長著しいアジアの経済を深く学ぶとともに、国際貿易、国際金融、開発協力など日本と世界との深いつながりを経済学の観点から学びます。国際社会の多様性を深く理解し、グローバル社会で活躍する人材を育成します。



経営学部

(経営学科／流通マーケティング学科)

経営学科は、「現代経営」「経営情報」「現代会計」「ファイナンス」の4コースを設置しています。各コースとも、それぞれのテーマに関する専門知識、および論理的思考能力を習得するとともに、実社会における経営や組織運営の場を想定した知識の応用力、意思決定力、リーダーシップを養成します。

流通マーケティング学科は、今はない市場をつくり出し、顧客や取引先、社会との良好な関係を構築するため、流通とマーケティングに関する専門知識と技術を習得します。流通論やマーケティング論の理解に加え、企業の具体的事例を研究対象とするケース・メソッドで、実践的な問題解決の力を養います。



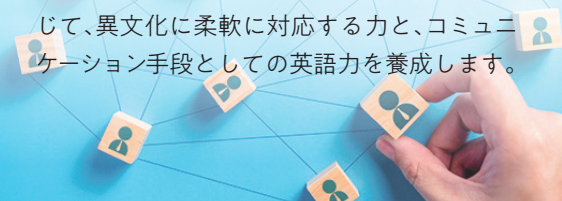
コミュニケーション学部

(メディア社会学科／国際コミュニケーション学科)

「メディア×国際」の専門性を掛け合わせた学びを展開します。

メディア社会学科では、マスメディアやソーシャルメディアなど、個々のメディアの特徴を踏まえたリテラシーの向上を目指します。講義科目とワークショップ科目を連動させ、表現力を鍛え、メディアテクノロジーを使いこなす力を養います。メディアリテラシーを活用し、国際的な視野から考え、行動できる人材を育てます。

国際コミュニケーション学科では、グローバル化が進む現代社会を、ヒト・モノ・コトが国境を越えて移動する「移動／モビリティ」の観点から考察します。異文化体験や語学科目等を通じて、異文化に柔軟に対応する力と、コミュニケーション手段としての英語力を養成します。



現代法学部

(現代法学科)

4年間を通じて少人数授業(15~20人程度)を展開し、学生と教員、学生相互がそれぞれの問題意識や理解度を確認しながら学びを深めていきます。2年次以降は6つのプログラムのいずれかに所属し、知識の習得と考察を重ねます。現実の社会問題を解決するための法的アプローチという視点を重視し、同時に政策のあり方について考えていきます。また、法律の知識を生かした職業に就きたい学生や、国家公務員・地方公務員を目指す学生をサポートする取り組みも行っています。



キャリアデザインプログラム

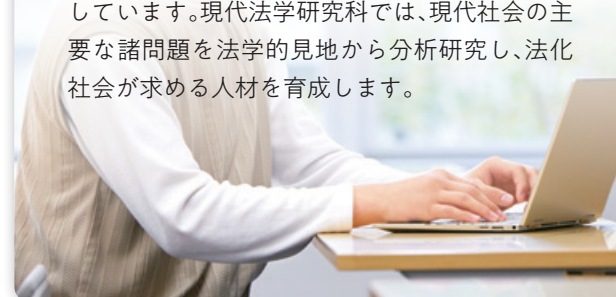
1年次から4年次に開講される少人数制の「キャリアデザイン・ワークショップ」により自分の適性を探り、長期的な目線で人生をデザインする力や主体的に考え行動する力を段階的に養います。あわせて1年次に4学部の入門科目を学んだ上で2年次以降は選択した学部にも所属し、社会科学の専門的な知識を習得します。

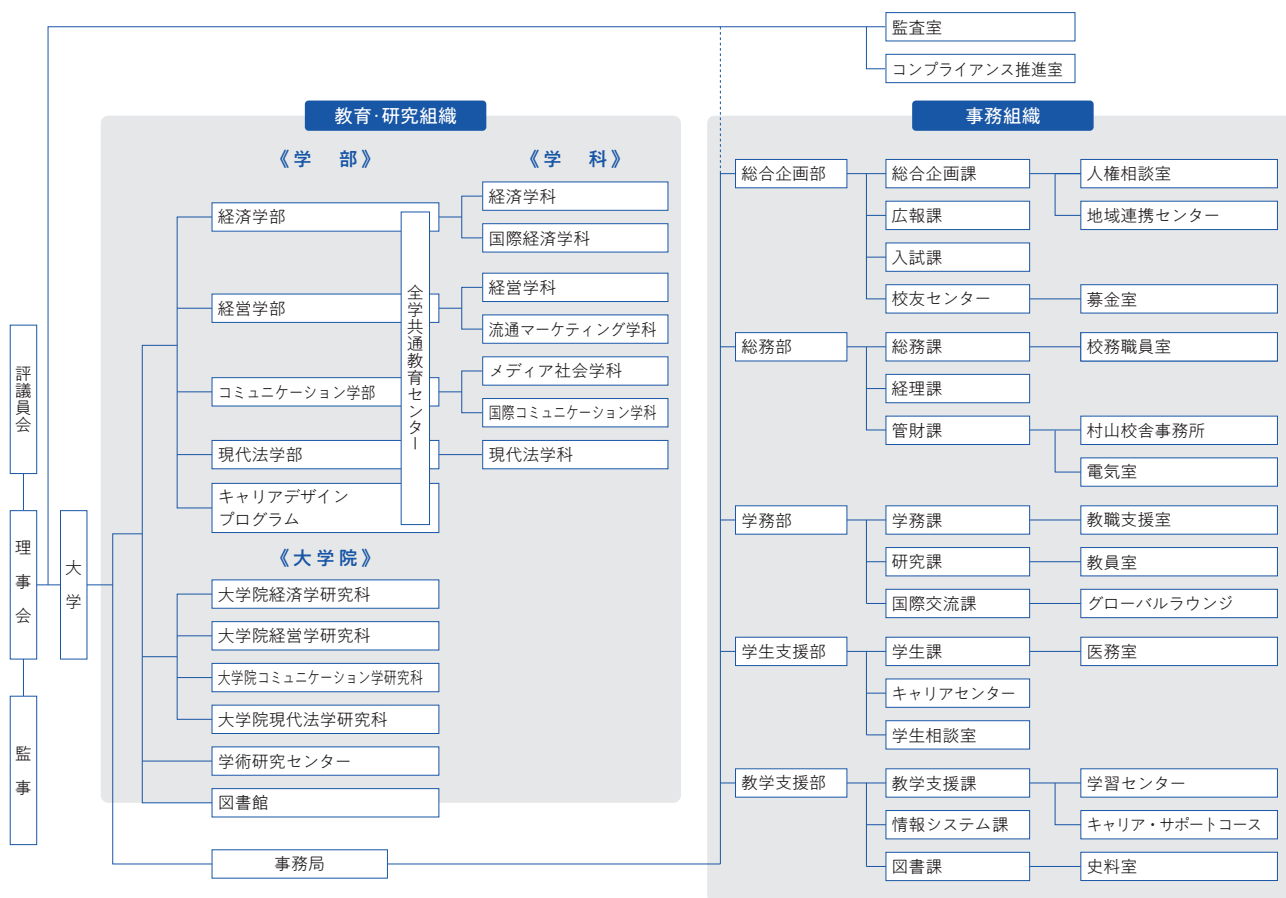
また、「学部横断履修科目」として他学部の科目も受講し、目指すキャリアの目的に応じて学びの世界を広げることが可能です。



大学院

4学部を基礎に4研究科を設けており、日本人学生、留学生、シニア大学院生など、多様な背景を持つ大学院生が共に研究しています。経済学研究科では、国内外経済の諸問題を客観的に分析する視野と学識を帯した研究者を育成します。経営学研究科では、企業社会の本質を捉えて分析し、実践的な解決を探求する研究と教育で、企業社会の未来を切り拓く企業人を養成します。コミュニケーション学研究科では、既存の学問体系を取り入れながら、コミュニケーション学の諸相を解明するスキルを身につけた研究者を育成しています。現代法学研究科では、現代社会の主要な諸問題を法学的見地から分析研究し、法治社会が求める人材を育成します。





国分寺キャンパス (校地面積 59,131.00m²)

〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-34 TEL.042-328-7711(代表)

武蔵村山キャンパス (校地面積 79,541.05m²)

〒208-0011 東京都武蔵村山市学園5-22-1 TEL.042-561-3711(代表)

情報公開(財務状況等)は
こちらからご覧ください。

